

第 37 回網走開発建設部総合評価審査委員会 審議概要

開催日及び場所	令和6年10月11日(金)13:30~15:30	
委員長	高橋 清(北見工業大学教授) (五十音順)	
委員	井上 真澄(北見工業大学教授) 笹木 潤(東京農業大学教授)	
議事	<p>1. 令和6年 上期総合評価落札方式(工事・業務)の実施状況について</p> <p>2. 個別審査</p> <p>1) 工事の審査について</p> <p>①ウトロ漁港 ケーソン製作工事 (施工能力評価型I型)若手技術者育成型</p> <p>②常呂川下流農業水利事業 共立排水機場建設その他工事 (施工能力評価型I型)</p> <p>2) 業務の審査について</p> <p>③網走開発建設部管内 河川津波遡上対策検討外業務 (簡易公募型プロポーザル方式)</p> <p>④網走開発建設部管内 交通円滑化検討業務 (簡易公募型プロポーザル方式)</p>	
	意見・質問	説明・回答
1. 個別審査	<p>1) ウトロ漁港 ケーソン製作工事 (施工能力評価型I型)若手技術者育成型</p> <p>①留意事項のB、D社の項目①は同じ内容で工事仕様書に定められているため評価しないとなっていますが、新技術を用いてよりよい品質管理(時間管理)となるならば評価しても良いのではないのでしょうか。例えばD社②の締固めについても仕様書である程度定められているが新技術による不可視部分の品質管理を認めているので①も評価できるのではないのでしょうか。</p> <p>②NETIS登録技術の活用のD社が①、②両方評価されているがこの社が技術開発していることから①が評価されているのでしょうか。</p> <p>③B社が作業船の保有が記載無しとなっていますが作業船がなくとも入札参加出来るのですか。</p> <p>2) 常呂川下流農業水利事業 共立排水機場建設 その他工事 (施工能力評価型I型)</p> <p>①「同種性の高い工事」の現場打ちコンクリート 構造物に規模の縛りはあるのですか。</p>	<p>①当該工事の留意事項について説明し、評価内容を説明。</p> <p>②評価、採点内容について説明。</p> <p>③入札参加の可否について説明。</p> <p>①規模の縛りは設けていない。</p>

<p>②技術評価で、賃上げを実施する企業に対する加点があるが、これを企業の評価とするのは何故なのですか</p> <p>④オホーツク地域は近年、降雨量が増加してきていますが、それらも考慮して設計されているのですか</p> <p>3) 網走開発建設部管内 河川津波遡上対策検討外業務 (簡易公募型 プロポーザル方式)</p> <p>①業務内容の常呂川津波遡上・影響対策検討となっていますが、まず、常呂川での津波遡上・影響対策検討を先行し、その知見を他の河川に展開していくとの考えですか。</p> <p>②津波遡上・影響対策検討で夏期と冬期についても、まず、夏期での検証を先行し、その知見を冬期へ展開していくことで良いか。</p> <p>4) 網走開発建設部管内 交通円滑化検討業務 (簡易公募型 プロポーザル方式)</p> <p>①項目 1-1～1-3 の記載が内容の部分に条件が記載されていたりしても評価していますが、記述されていれば評価していると考えてよいでしょうか。①項目 1-2 は条件の記載となっていますが、区間数や箇所数など内容的に業務内容の記述を求めて様にも感じます。</p> <p>②会議参加による意見交換会は一般的なものなのですか。</p> <p>上記、工事・業務について適切な評価と認める。</p> <p>※ 応札者の提案又はその評価に係わる内容は、技術提案に関する機密保持の観点から記載しておりません。</p>	<p>②建設業として、賃上げによる担い手の増加・育成をしていく観点から賃上げを企業のインセンティブとしている点もあります。</p> <p>④過去の降雨データを整理（農業では過去 10 年）し、整備水準を決定しています。</p> <p>①常呂川は樋門の数が一番多く、流域資産も一番大きいことから常呂川を先行するものとしています。</p> <p>②冬期、結氷状態の河川もしくは流水接岸時の津波遡上・影響の知見が無いことから、先行して夏期の検討を行い、それをベースに冬期の対策を進めたいと考えています。</p> <p>①評価、採点内容について説明。</p> <p>②評価、採点内容について説明。</p>
--	--

